
文化薫る地域の魅力づくりプラン

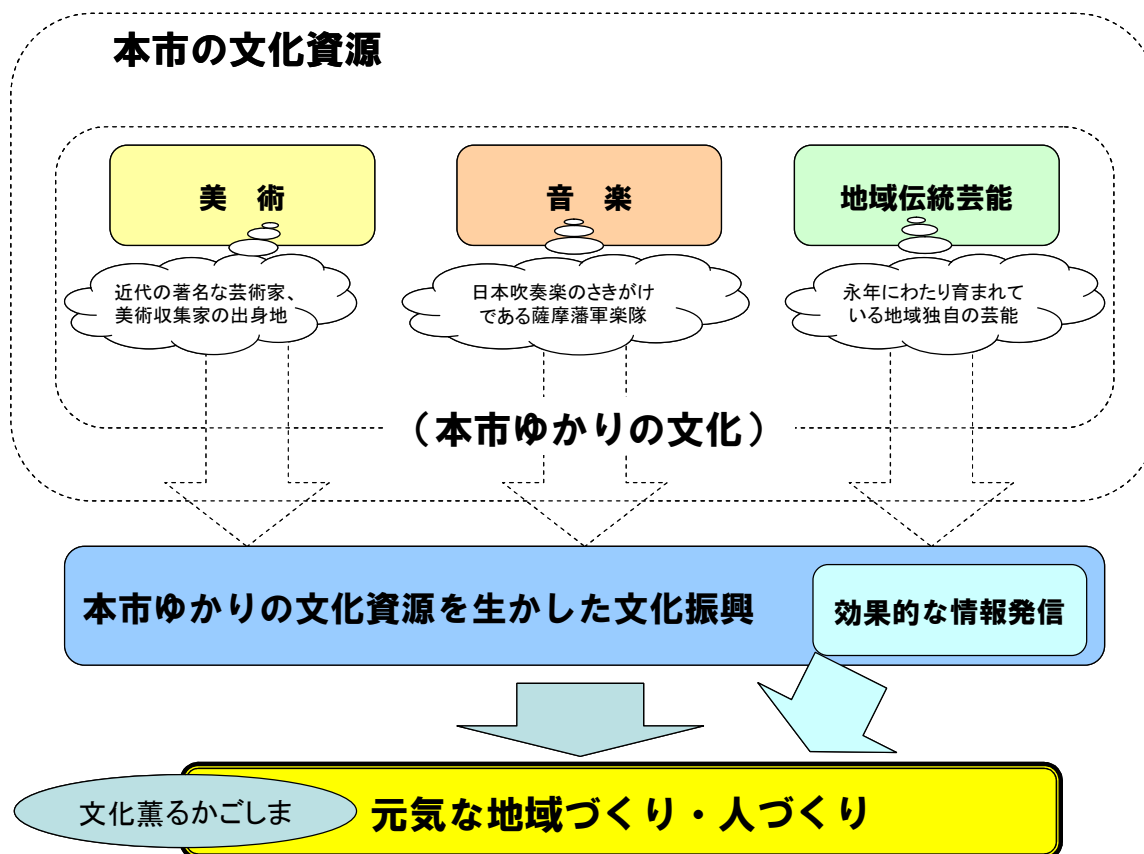
目 次

	ページ
1. プラン策定の目的	1
2. プランの位置づけ	2
3. プランの計画期間	2
4. 現状における課題	3
5. プランの目標	4
6. 基本方針	4
7. 分野別方針	5
8. プランの体系(プランの目標、基本方針、分野別方針、重点事業)	6
9. プランの推進体制	7
10. プランの推進スケジュール	8
11. 重点事業	9

1. プラン策定の目的

都市化の進展や少子高齢化の進行などにより、これまで永年にわたって育まれてきた伝統芸能や祭り、風物詩を継承していくことが難しくなりつつあります。また、本市は、黒田清輝、藤島武二、松方幸次郎等の芸術家、美術収集家の出身地であることに加え、日本吹奏楽のさきがけである薩摩藩軍楽隊を生み出したことなど、美術や音楽にもゆかりの深い都市です。

これらを踏まえ、本プランにおいては、「美術」「音楽」「地域伝統芸能」に重点を置き、各分野の地域資源を掘り起こし、地域住民、NPO、ボランティア、事業者など市民みんなで地域文化を守り育てる取組を進めます。また、各地域での取組に光を当て、分野別・季節別・地域別などさまざまな切り口での情報発信等により、文化薫るかごしまづくり、文化振興を通じた元気な地域づくり・人づくりを進めます。

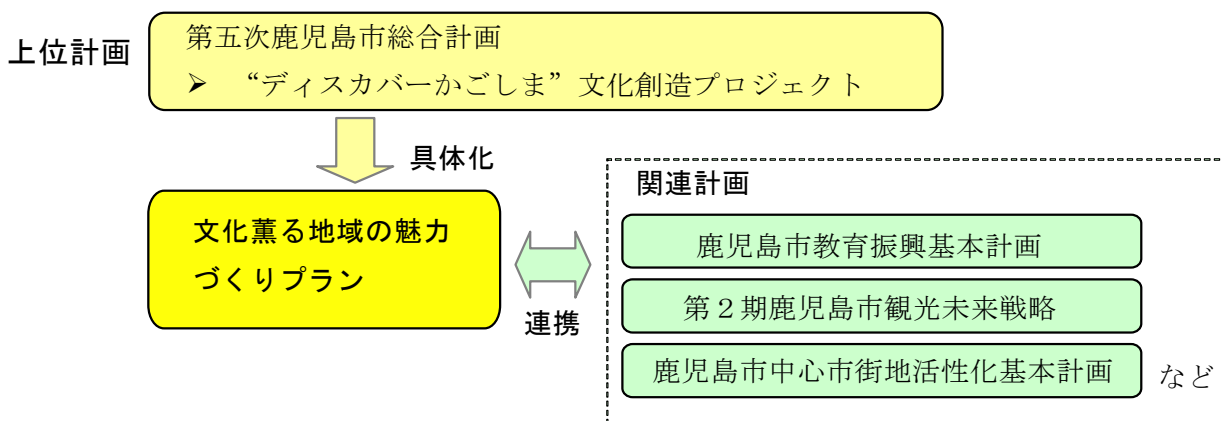


2. プランの位置づけ

第五次鹿児島市総合計画においては、都市像に掲げる「人・まち・みどり みんなで創る“豊かさ”実感都市・かごしま」を実現するため、特に先導的かつ重点的に取り組むべきものを「豊かさ実感リーディングプロジェクト」として5つのプロジェクトを掲げています。

その中で、文化振興を通じた元気な地域づくり・人づくりを進めるために、「ディスカバーかごしま”文化創造プロジェクト」が位置づけられています。

本プランは、「“ディスカバーかごしま”文化創造プロジェクト」の取組を具体化するとともに、鹿児島市教育振興基本計画、第2期鹿児島市観光未来戦略、鹿児島市中心市街地活性化基本計画等の関連計画との整合を図り、取組の連携も視野に入れて策定いたします。



3. プランの計画期間

第五次鹿児島市総合計画基本計画の計画期間は、平成24年度から平成28年度の5年間とされています。

このことを踏まえ、本プランの計画期間は、平成24年度から平成28年度の5年間とします。

4. 現状における課題

主要課題（分野共通の課題）

○文化への理解と気づきを促す機会・教育が必要

市民が文化について知る機会が不足しており、文化活動の中には市民にあまり知られていないものもあります。子どもの頃から文化活動に触れ、文化への理解と気づきを促す機会を創出することが必要です。

○地域間、団体間のつながりを形成する体制が必要

さまざまな組織が個別に活動しており、地域間や団体間の交流や連携も十分とはいえません。分野を横断して意見交換しながら、目標や問題意識を共有し、連携の基礎となる場づくりが必要です。

○「鹿児島らしさ」の強化が必要

地域の文化価値を高めるためには、その土地で生まれた文化の背景を伝えることが重要であり、地域の素材や人を活用し、「ここにしかない」ものを磨き上げることが必要です。また、鹿児島をフィールドとして既存の文化と新たな文化を融合し、鹿児島の新たな魅力を生み出すことも必要です。

○「伝わる発信」が必要

文化に関する情報が個別に発信され、知りたい情報が簡単には得られにくく、また、鹿児島の文化を正確にわかりやすく伝える情報発信が不足している状況にあります。活動や人の情報を集約するとともに、市内外の人に鹿児島の文化の魅力を感じてもらえる見せ方を戦略的に行うことが必要です。

分野別課題

美術

◆「質」を高めるため、アートに触れる機会を増やすことが必要

これまで、「質」の高いアートに触れる機会や、自由に語りあう「場」が限られてきました。また、アートの情報発信や、市民が楽しむための工夫も十分とはいえませんでした。身近な環境の中でもアートに触れる機会を増やし、これらを楽しみ、より深く理解するための多様なプログラムや情報発信のための「場」が必要です。

音楽

◆音楽活動をしやすい環境づくりが必要

音を出すことへの制約が多いため、自由に使える練習場や発表の場が不足している状況にあります。自由な練習環境や柔軟に使える発表空間を確保し、市民が音楽活動をしやすい環境をつくる必要があります。

地域伝統芸能

◆地域の誇りとして、「本物の伝統芸能」を守り伝える認識が必要

近年、各地域の伝統芸能の保存会の中には、活動を休止する団体も出てきています。また、伝統芸能が残っている地域においても、その意義や本質をそのまま伝えられない状況もみられます。地域に根付く伝統芸能の意義や本質を地域の世代間のつながりの中で大切に伝承することが必要です。

5. プランの目標

本プランにおいて重点的・先導的に取り組む3つの分野（美術、音楽、地域伝統芸能）に係る事業を通じてめざしていく目標を、次のように掲げます。

伝承と創造でひらく 文化薫るかごしま

美術・音楽など本市にゆかりのある文化を生かしたさまざまな取組を行うとともに、各地域に伝わる伝統芸能を大切に守り伝えます。

また、伝統ある文化と新たな文化を融合させることにより、新たな魅力を創造する「文化薫るかごしま」へ発展します。

6. 基本方針

基本方針① 市民みんなで文化を盛り上げる ～人づくり・体制づくり～

- 文化の本質を市民全体で共有する
 - … 鹿児島の文化を大切に思い、そのよさを自らの言葉で伝えることのできる人材を育てるため、子どもの頃から文化に親しみ、その意義や本質を学ぶ機会を創出します。
- 文化を支える取組を連携させる
 - … 文化を支える既存の取組を継続し、さらに魅力的なものにしていくため、共同のイベント開催や人材の交流など、取組の連携につなげる仕組みをつくりまします。

基本方針② 文化資源を磨き、「ここにしかないもの」を築く ～継承・発展～

- 文化を守り、磨き上げる
 - … この地で生まれ、永年にわたり伝えられてきた文化を守り、「ここにしかない」ものとして、その魅力をさらに磨き上げるため、担い手の育成や支援の拡充を行うなど、地域性や取組内容に応じた継承の方策を検討します。
- 文化を発展させ、新たな魅力を生み出す
 - … 鹿児島の文化を今後さらに発展させ、新たな魅力を生み出すため、分野を横断したイベントを開催するなど、「鹿児島」をフィールドとして近年育ってきた新たな文化と既存の文化とを融合させるしかけを行います。

基本方針③ 地域に根ざした多彩な文化資源を活用し、まちの価値・魅力を高める ～活用・交流～

- 身近な所に活動の場を提供する
 - … 誰もが文化を身近に感じられる機会を増やし、まちなかの活気づくりにつなげるため、公園、広場等の空きスペースを活用して、イベントや展覧会、日常の練習や創作活動等を行う場を提供します。
- 「かごしま文化」を交流の手段として活用する
 - … 文化を通じた市内外の交流促進を図るため、地域の文化資源や発表の舞台を巡るツアー、多様な文化を体感できるプログラムなどを提供します。

基本方針④ 文化を通じてまちの魅力を一体的に発信する ～情報発信～

- 文化情報を効果的に発信する
 - … 文化情報（人、もの、活動）の効果的な発信を行うため、文化に関するさまざまな情報を集約したホームページ等を作成します。また、文化の意義や本質をわかりやすく伝えるため、ハンドブック等を作成します。
- 「かごしま文化」をプロモーションの素材として発信する
 - … 鹿児島への来訪意欲を喚起するため、市外・県外で鹿児島ゆかりの作品展示やイベントを行うなど、プロモーション素材として戦略的に文化を発信します。

7. 分野別方針

美術

◆「質」の高いアートに触れ、自由に語りあう機会を増やす

身近な環境の中でもアートに触れる機会や、それらを楽しみ、より深く理解するためのプログラム（ワークショップ・ギャラリートーク等）や「場」（アートサロン）を準備し、市民が「質」の高いアートを身近に体感できるしかけを行います。また、アートを鹿児島市のプロモーションの手段として活用し、戦略的に発信します。

音楽

◆音楽活動の舞台、フィールドを確保する

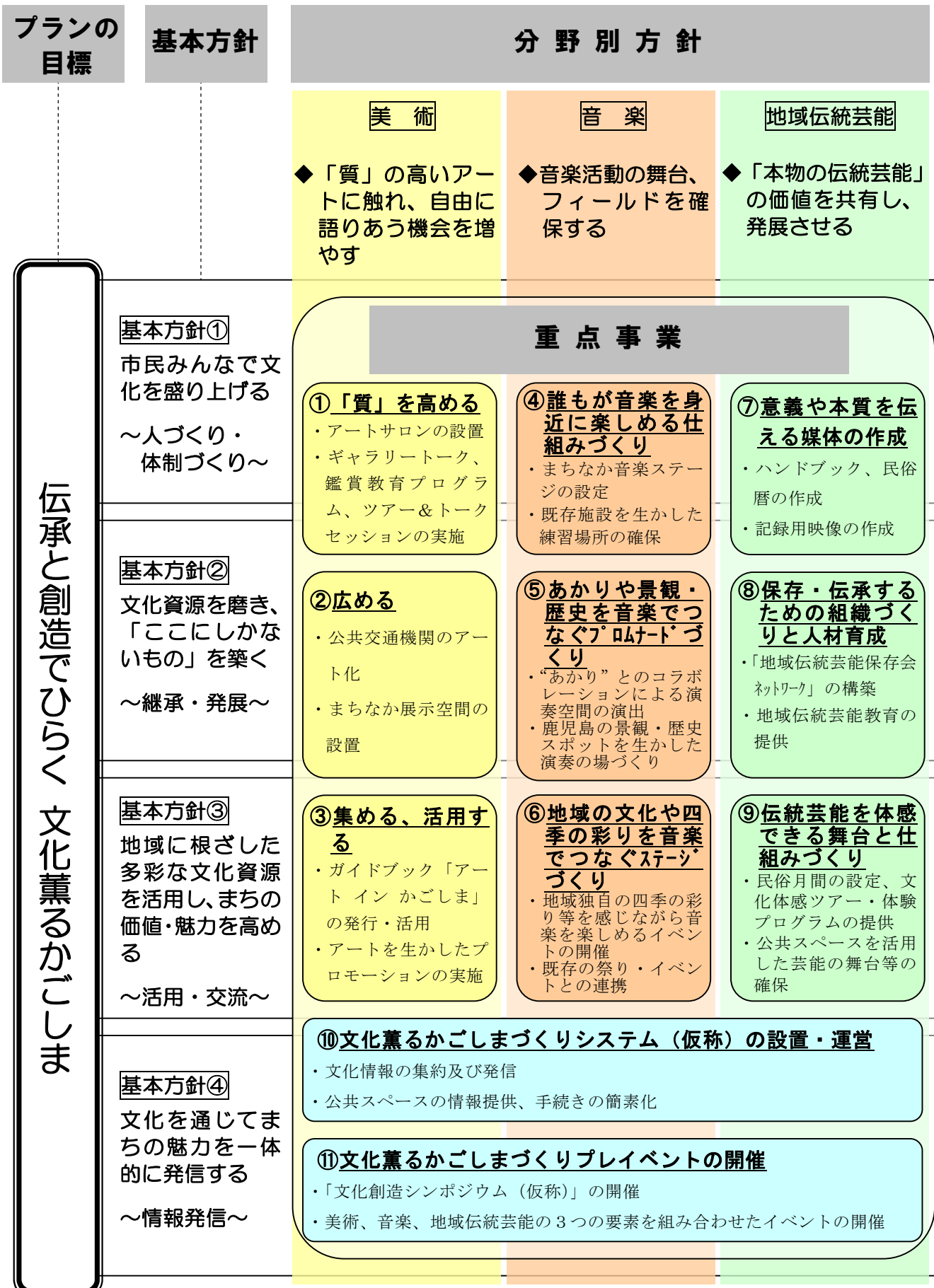
歴史や景観、地域独自の四季の彩りなどを生かした演奏の場をつくりまします。また、市民が身近に音楽を楽しめる環境をつくるため、練習の場を確保するとともに、日頃の音楽活動の成果を発表する場を設け、アーケードや広場などまちなかをステージとしたコンサートを開催します。

地域伝統芸能

◆「本物の伝統芸能」の価値を共有し、発展させる

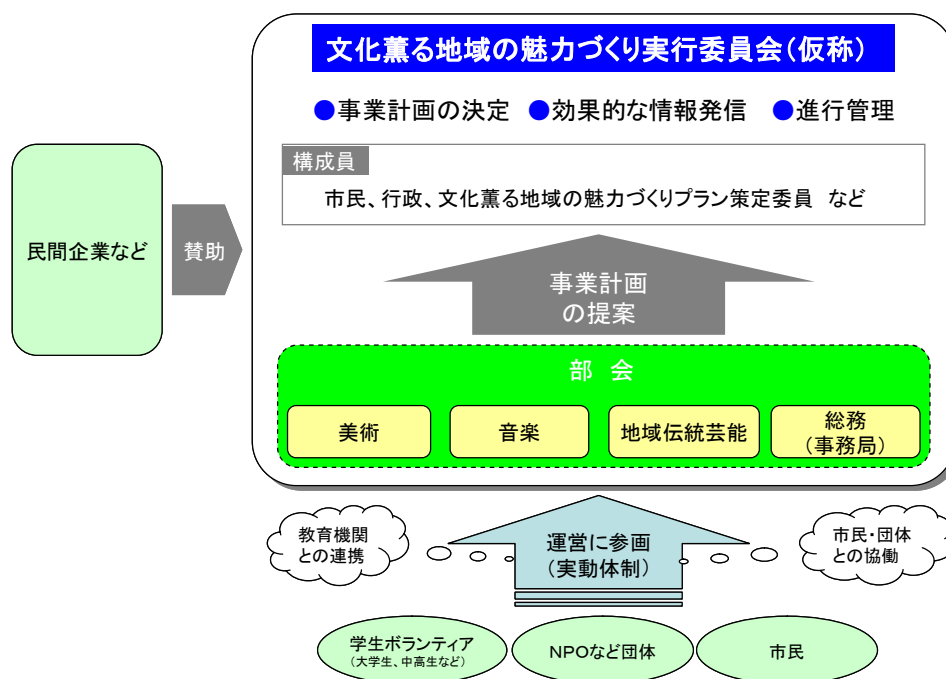
子どもから大人まで地域伝統芸能に興味をもつ市民のすそ野を広げ、市民みんなでその価値を共有するため、地域伝統芸能の意義や本質を伝える機会を設けるなど、正しく伝承するための取組や人づくりを進めます。また、地域間の連携や、学生など地域外の人との交流などを通じて、「楽しさ」を付加させ、地域の伝統芸能をさらに発展させます。

8. プランの体系（プランの目標、基本方針、分野別方針、重点事業）



伝承と創造でひろく文化薫るかごしま

9. プランの推進体制



<p>1. 実行委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ プランに基づき部会から提案された事業計画を決定します。 ・ プランの実現に向けての進行管理を行います。 ・ 構成員は、行政のほか、プラン策定委員会の委員、マスコミ、社会貢献活動に積極的な企業・団体などを想定します。 ・ 事務局は、将来的には、市民との協働による体制づくりにさらに努めます。 ・ 事業全体の情報発信やコーディネートなどを行う「総合プロデューサー」の設置については、事業の推進経過などを踏まえながら、実行委員会の中で検討していくこととします。
<p>2. 部会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ プランに基づき事業計画を検討し、実行委員会に提案します。 ・ 実行委員会で決定された事業計画に基づき事業を実施します。 ・ 美術・音楽・地域伝統芸能・総務の4つの部会を置きます。 ・ 美術・音楽・地域伝統芸能の各部会の構成メンバーは、プラン策定委員会の委員、大学生等を想定します。総務部会は、将来的には、市民との協働による体制をめざします。 ・ 総務部会は、分野横断の事業のほか、財務などの事務局機能を担います。
<p>3. 実動体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO等の各種団体と連携して進める体制を構築することに加え、イベントなど多くの人の力が必要な事業は、学生や市民のボランティアに参画をもらうなど、教育機関との連携、市民・団体との協働の下で進めます。 ・ 各事業の実動体制については、事業単位でかかわる組織や人が変わるため、重点事業ごとに位置づけます。

※行政については、市のほか、県等の関係機関とも連携・協力しながら推進します。

10. プランの推進スケジュール

本プランに掲げる重点事業は、以下のスケジュールを基本に進めます。

分野	重点事業	H24	H25	H26	H27	H28
美術	【重点事業①】 「質」を高める	●●●●●●●● [試行※1]	→ [サロン設置]	→ [プログラム企画・実施]		
	【重点事業②】 広める				[企画]	[実施]
	【重点事業③】 集める、活用する	●●●●●●●●	[情報収集]	[作成]	[情報更新・プロモーション実施]	
音楽	【重点事業④】 誰もが音楽を身近に楽しめる 仕組みづくり	●●●●●●●● [試行※1]	→ [発表・練習の場の確保]	→ [運用・情報発信]		
	【重点事業⑤】 あかりや景観・歴史を音楽で つなぐプロムナードづくり	●●●●●●●● [試行※1]		→ [企画・実施]	→ [継続、見直し]	
	【重点事業⑥】 地域の文化や四季の彩りを 音楽でつなぐステージづくり				[企画・実施]	[継続、見直し]
地域伝統芸能	【重点事業⑦】 意義や本質を伝える媒体の 作成	●●●●●●●●	[情報収集]	[作成]	[継続、情報更新]	
	【重点事業⑧】 保存・伝承するための組織づ くりと人材育成		→ [検討、仕組みの構築]		→ [継続、見直し]	
	【重点事業⑨】 伝統芸能を体感できる舞台と 仕組みづくり	●●●●●●●● [試行※1]			→ [ツアー等企画・舞台確保]	
分野横断	【重点事業⑩】 「文化薫るかごしまづくりシス テム(仮称)」の設置		→ [システム構築・HP等作成]		→ [運用・更新]	
	【重点事業⑪】 文化薫るかごしまづくりプレイ イベントの開催	→ [企画・実施]				

※1：重点事業⑪のプレイイベントの中で試行的に実施します。

※2：実施段階においては、実行委員会での検討状況や予算上の制約などにより、スケジュールや個別の取組内容を見直すことも想定されます。

11. 重点事業

美術

重点事業① 「質」を高める

●事業概要

概要・目的	<p>既存の文化施設や美術館周辺の公共スペースを活用してアートサロンを設置し、そこを拠点に以下のプログラムを実施する。実施した内容はTwitterやSNSを活用してリアルタイムに情報を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ギャラリートーク(美術に関して知識のある人を招いて美術を鑑賞しながら、その美術について自由に語りあう場をつくる。) ○ 鑑賞教育プログラム(子どもから大人まで多種多様な「質」の高い美術を見る機会を増やし、主体的に評価できる鑑賞者を育てるための講座やワークショップ等を実践する。) ○ ツアー&トークセッション(市内の美術館やギャラリー等を巡る鑑賞ツアーとお互いの考えを話し合うトークセッションをセットで提供する。)
-------	---

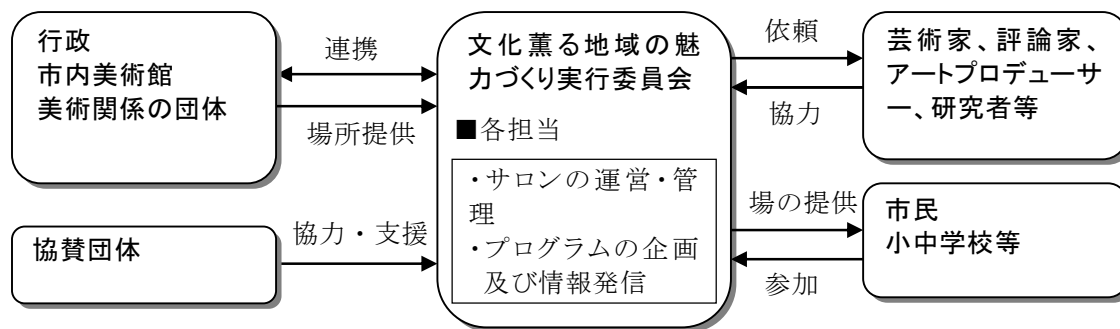
●事業実施の背景及び事業実施により期待される効果や生じる課題

事業実施の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・「質」の高い美術に触れる機会が多くの人には提供されていない状況である。 ・「質」の高い美術に触れて学ぶ鑑賞教育が求められている。 ・美術に対して主体的に批評する場がなく、的確に批評できる人材が不足している。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・「質」の高いアートと身近に触れあう機会を多くもつことによって、アートに興味をもつきっかけとなり、アートを見る眼が養われる。 ・誰もが主体的にアートについて自由に語りあう機会をつくることで、アートを的確に評価できる人材が育つ。 ・身近に「質」の高いアートに触れる機会があることが、鹿児島島の暮らしの魅力となる。
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・まずアートサロンに来てもらうことが大切である。(効果的なPR) ・魅力的な企画をつくり、人を集められるかどうか重要である。 <p><課題への対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートサロンは、柔軟な発想で自由に活動できるスペースにすることが望ましい。

※Twitter: 個々のユーザーが「ツイート」(tweet)と呼ばれる 140 文字以内の「つぶやき」を投稿し、そのユーザーをフォローしているユーザーが閲覧できるサービス。

※SNS : Social Networking Service(Site)の略。インターネット上で友人を紹介しあって、個人間の交流を支援するサービス(サイト)。誰でも参加できるものと、友人からの紹介がないと参加できないものがある。

●事業の推進体制



●役割分担

実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・アートサロンの運営を行う。 ・各種プログラムの企画及び情報発信を行う。 ・子どもの鑑賞教育は、実行委員会と教育委員会・小中学校等が連携して取り組む。
市民・団体	<ul style="list-style-type: none"> ・各種プログラムに参加する。 ・プログラムのPRに協力する。(TwitterやSNS等を活用して) ・芸術家、評論家、アートプロデューサー、研究者などは、各種プログラムの講師として参加する。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会と連携して事業運営を支える。 ・プログラムの実施場所の提供に努める。 ・プログラムをPRする。

※事業イメージ



重点事業② 広める

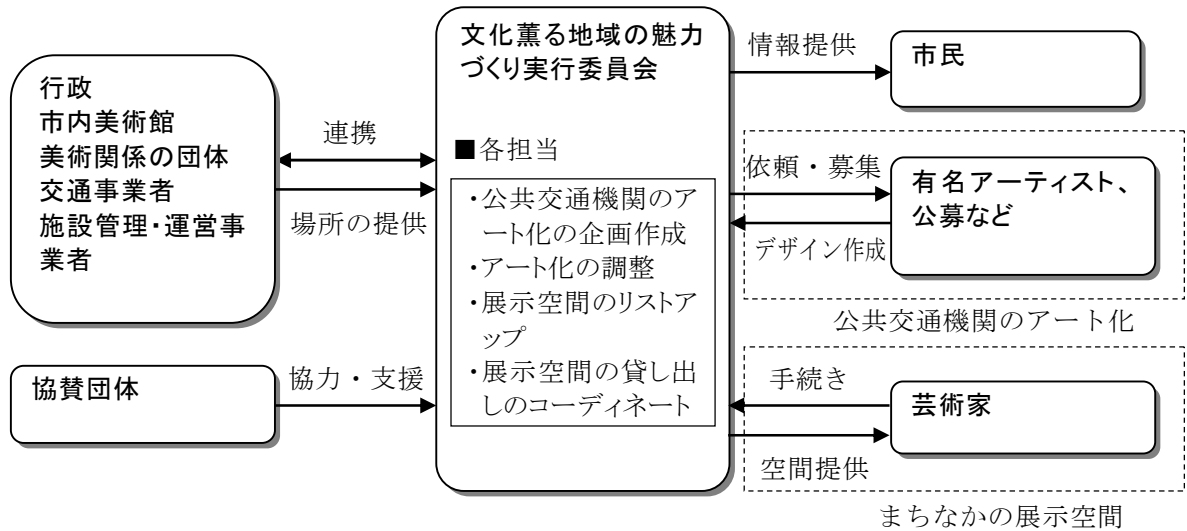
●事業概要

概要・目的	<p>市民にとって身近な空間である市電、バス、フェリーといった公共交通機関をアートで彩ることや、鹿児島のみちなかに点在している歴史的な建造物などを展示空間として活用することにより、日常の中で自ずとアートに触れる機会を創出する。</p> <p>○ 公共交通機関のアート化 市外、県外の人アート化した公共交通機関を目当てに鹿児島を訪れたいくなるような遊び心をもたせたしかけや PR を行う。例えば、まず有名アーティストにデザインを依頼して注目を集め、その後にデザインの公募を行うなど、公共交通機関のアート化の過程にイベント性をもたせた展開を検討する。</p> <p>○ みちなか展示空間の設置 展示空間として貸し出すことが可能な施設をリストアップして、その受け入れ窓口を設置し、利用者の募集から貸し出しまでトータルでコーディネートする。</p>
-------	--

●事業実施の背景及び事業実施により期待される効果や生じる課題

事業実施の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の中で身近に美術に触れる機会が少ない。 ・ 美術館やギャラリーなど、作品発表をするスペースが限られている。(自由な発想で展示空間を構成できる場が少ない。) ・ 美術館やギャラリー以外の空間を展示スペースとして借りる場合、その手続きに手間がかかる。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通機関のアート化や、今まで展示空間として活用されていなかった場所での展示を行うことで、市民が身近にアートに触れることができ、アートに興味をもつきっかけとなる。 ・ さまざまな展示空間を設けることで、若手アーティストの発表の機会が増える。 ・ 「質」の高いアートに触れる機会を増やすことで、美のみちとしてのイメージ戦略やみちの新たな魅力づくりにつながる。
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通機関をアート化するには運行上、安全上の制限との兼ね合いがある。 ・ 交通事業者との協議が必要。 ・ アート化した公共交通機関の維持、補修。 ・ 展示する作品の「質」の確保。 <p><課題への対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通機関のアート化の企画を行う際に、アート化において懸念される事項を整理し、十分に協議・検討を重ねた上で実施する。 ・ 交通事業者側がメリットを享受できる形で実施する。(アート化した車体が鹿児島市の公共交通を宣伝するようしかけ)

●事業の推進体制



●役割分担

実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・アート化の企画作成・調整を行う。 ・展示空間のリストアップ・貸し出しのコーディネートを行う。
市民・団体	<ul style="list-style-type: none"> ・アート化した公共交通機関を利用する。 ・新たな展示空間に足を運ぶ。 ・芸術家は展示空間を活用して、個展の開催等を行う。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者は、実行委員会が行うアート化の事業に協力する。 ・施設管理・運営事業者は、展示空間となる場所の提供に努める。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会と連携して事業運営を支える。 ・展示空間となる場所の提供に努める。

※事業イメージ



重点事業③ 集める、活用する

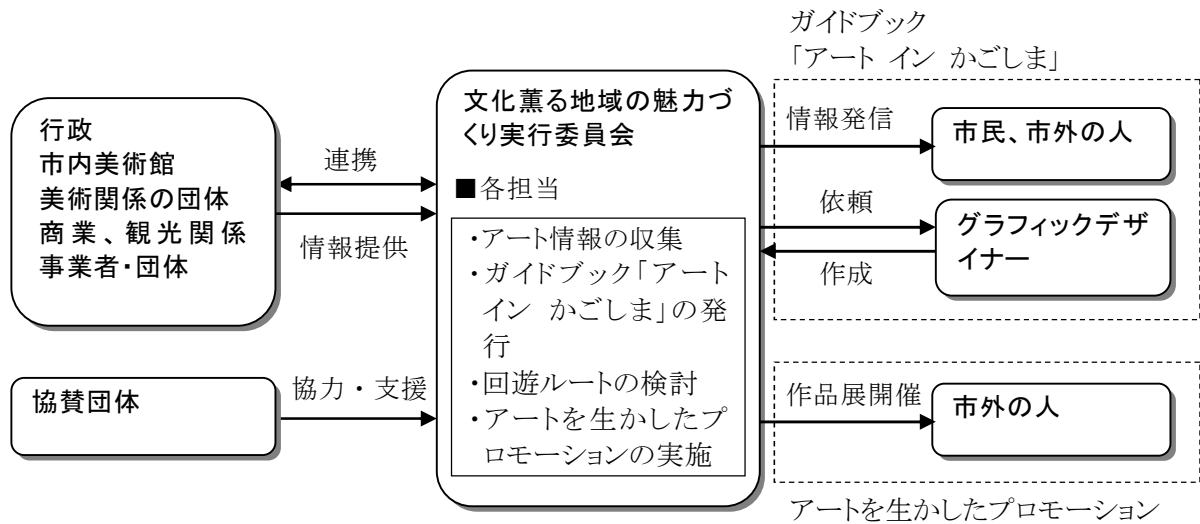
●事業概要

概要・目的	<p>○ ガイドブック「アート イン かがしま」の発行・活用</p> <p>市民や観光客が鹿児島県のアートについて理解を深め、アートをテーマに楽しみながらまちを巡ることができるように、ギャラリーマップ、回遊ルート、展示情報など鹿児島県のアート情報を集約したガイドブック「アート イン かがしま」を発行する。</p> <p>ガイドブック「アート イン かがしま」は、デザインにこだわって作成し、作成後は、電子化して広く発信するとともに、マップと連動させた回遊ルートを生かした観光メニューとして提供する。</p> <p>また、アートに対する批評・話題について、タイムリーな情報を提供する。</p> <p>○ アートを生かしたプロモーションの実施</p> <p>鹿児島県をプロモーションする機会にあわせて鹿児島県出身の作家の作品や鹿児島県をテーマにした作品を展示するなど、鹿児島県のアートを活用して鹿児島県をPRする。</p>
-------	--

●事業実施の背景及び事業実施により期待される効果や生じる課題

事業実施の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ ギャラリーマップはあるが、鹿児島県のアートの情報を集約したガイドブックは存在しない。 ・ アートでまちを回遊するための情報が不足している。 ・ 鹿児島県のプロモーションを行う際に、鹿児島県のアートが生かされていない。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿児島県のアートを知り、興味をもつきっかけになる。 ・ ガイドブック「アート イン かがしま」を作成し、マップ連動の回遊ルートをつくることで、観光面でアートを活用することができる。 ・ 市外県外の人が、鹿児島県のアートに触れることで、鹿児島県への来訪意欲の向上につながる。
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドブック「アート イン かがしま」は、既に市内で発行されているアート関係の情報誌等との棲み分けが必要である。 ・ 回遊ルートを示す場合は、実際の動きを考慮する必要がある。 ・ アートだけでのプロモーションには限界がある。 <p><課題への対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アート関係の情報発信を行っている商業・観光関係の事業者・団体と連携・協力し、ガイドブック「アート イン かがしま」の内容を検討する。 ・ 回遊ルートは、現時点の観光動線やスポット間の交通手段を踏まえて作成する。 ・ プロモーションを行う際は、食など他の分野と一緒に実施する。

●事業の推進体制



●役割分担

実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ アート情報を収集する。 ・ ガイドブック「アート イン かがしま」の発行、回遊ルートの検討を行う。 ・ アートを生かしたプロモーションを行う。
市民・団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドブック「アート イン かがしま」を活用して鹿児島のアートを学び、それを市外の人にも伝える。 ・ 美術関係の団体は、活動情報などの情報を提供する。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業、観光関係事業者・団体は、ガイドブック「アート イン かがしま」の作成や回遊ルートの検討に協力する。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員会と連携して事業運営を支える。 ・ 施設等の情報を提供する。

※事業イメージ



重点事業④ **誰もが音楽を身近に楽しめる仕組みづくり**

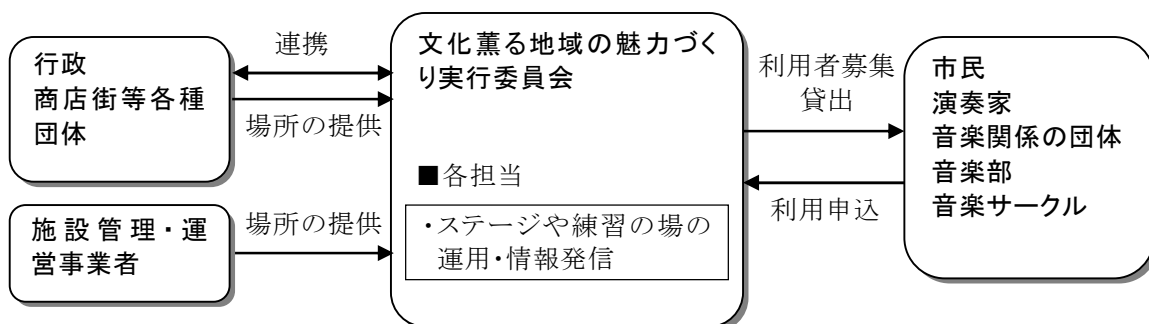
●事業概要

概要・目的	<p>○ まちなか音楽ステージの設定</p> <p>まちなかを音楽ステージと見立て、公園や広場、路上などを活用し、市民誰もが成果を発表できるステージを用意し、まちなかに音楽が流れる魅力的な空間をつくる。</p> <p>ステージの構築にあたっては、中心市街地活性化のためのさまざまなイベントとあわせて開催したり、現在実施している「よりみちクルーズ」の船内でコンサートを開催したりするなど、既存の取組との連携を意識する。</p> <p>○ 既存施設を生かした練習場所の確保</p> <p>公共スペースや民間施設など、練習場所として活用が可能な場をリストアップし、利用内容を含めて情報を発信した上で、利用しやすい環境をつくる。</p>
-------	--

●事業実施の背景及び事業実施により期待される効果や生じる課題

事業実施の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由な発想で発表できる舞台・スペースが不足している。 ・ 音を出すことへの規制が多く、練習の場が不足している。 ・ まちなかには音楽ステージとして活用できる多様なスペースがある。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちなかの公共スペースを発表・練習の場として活用できるとともに、その場所に人が集まることで、まちなかの活性化につながる。 ・ アーケード内などあらゆる場所に音楽ステージとなる場所を設けることで、市民が日常的に音楽に触れられる。 ・ 既存の施設・スペースを利用して事業を進めることができる。
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちなかに音楽ステージをつくる場合、観客を集めることができる演奏内容にすることが重要である。 ・ 騒音の問題が生じる可能性がある。(とくに練習の場として提供する場合) ・ 元来の目的と異なる(防音工事がされていない)空き店舗等を貸し出す場合、そのままでは使えないため、施設・設備の改造費用が必要となる。 ・ 地域、オーナーの理解が必要である。(実施場所、時間、内容等の情報共有が必要) ・ 貸し手と借り手をつなぐマッチングの仕組みが重要である。(借りたい人に情報が伝わる必要がある) <p><課題への対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽ステージを設ける商店街等と企画段階から連携し、客層・ターゲットに合わせた演奏プログラムをつくる。(地域の事情を踏まえた企画) ・ ステージ開催の参加者は、実行委員会が選定する。 ・ 各種団体、施設管理者、行政など多様な主体と連携しながら事業を進める。

●事業の推進体制



●役割分担

実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ ステージや練習の場の運用・情報発信を行う。 ・ 商店街等各種団体と連携して事業を実施する。
市民・団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちなかでの音楽イベントを鑑賞する。 ・ 個人、音楽サークルなどの演奏発表の場としてまちなかの音楽ステージを活用する。 ・ 個人、音楽サークルなどで練習場として提供されるスペースを利用する。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設管理・運営事業者等は、音楽ステージとなる場所、練習可能な場所の提供に努める。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員会と連携して事業運営を支える。 ・ 音楽ステージとなる場所、練習が可能な場所の提供に努める。

※事業イメージ



重点事業⑤ **あかりや景観・歴史を音楽でつなぐプロムナードづくり**

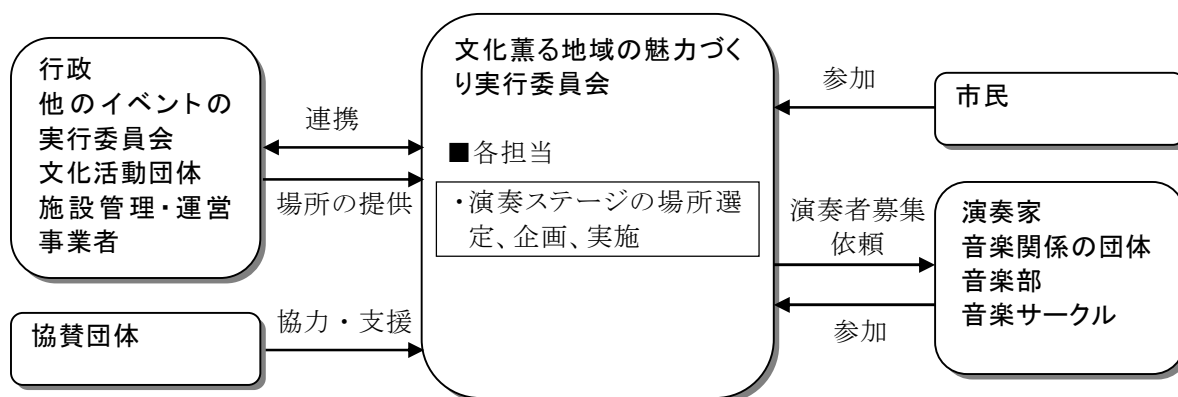
●事業概要

概要・目的	<p>鹿児島の文化ゾーンを中心に音楽の演奏空間をいくつか設け、それらを“あかり”でつなぎ、鹿児島の“景観・歴史”の中に音楽のある風景を演出する。</p> <p>“あかり”を用いた取組としては、市内のライトアップスポットでの演奏会や竹灯籠コンサートを開催するなど、音楽と“あかり”とのコラボレーションにより演奏空間を演出する。</p> <p>ステージの場所の選定にあたっては、鹿児島の歴史やまちの景観を音楽で彩ることを意識し、歴史的建造物、錦江湾、桜島など、鹿児島の景観・歴史スポットを生かした演奏の場づくりを行う。</p>
-------	--

●事業実施の背景及び事業実施により期待される効果や生じる課題

事業実施の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本吹奏楽のさきがけである薩摩藩軍楽隊を生み出した音楽のまちとしてのPRが不十分であり、市民にもあまり認知されていない。 ・ 演奏者が音楽のタイプに応じて舞台等を自由にアレンジできるような演奏の場が不足している。 ・ 中心市街地活性化のために、まちなかでの音楽イベントも既に開催されているが、魅力的な演奏空間にするためにはさらなる検討が必要である。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちなかでコンサートを開催することにより、その場所に人が集まり、まちなかの活性化につながる。 ・ 「あかり」や「景観・歴史」とのコラボレーションにより、演奏空間の魅力が増し、新たなまちの魅力となる。 ・ 舞台づくりから市民が参加できるイベントにすることで、音楽がより身近で、より楽しく、より魅力的なものになる。
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演奏空間を演出するにあたり、関係機関の柔軟な対応が必要。 ・ 他のイベントとの連携、協力が必要。 ・ 一過性でなく、継続するイベントとして地域に根付くことが大切。 <p><課題への対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他のイベントの実行委員会や施設等と連携し、年間スケジュールを調整しながら実施する。

●事業の推進体制



●役割分担

実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の各種イベントと連携する。 ・ 演奏ステージの場所の選定、企画を行い、実施する。
市民・団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演奏ステージの運営に参加する。 ・ 既存の他のイベントの実行委員会は、連携してイベントを開催する。 ・ 演奏家、音楽関係の団体、サークルなどは、演奏者として協力する。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設管理・運営事業者は、演奏ステージとなる場所の提供に努める。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員会と連携して事業運営を支える。 ・ 演奏ステージとなる場所の提供に努める。 ・ イベントのPRに協力する。

※事業イメージ



重点事業⑥ 地域の文化や四季の彩りを音楽でつなぐステージづくり

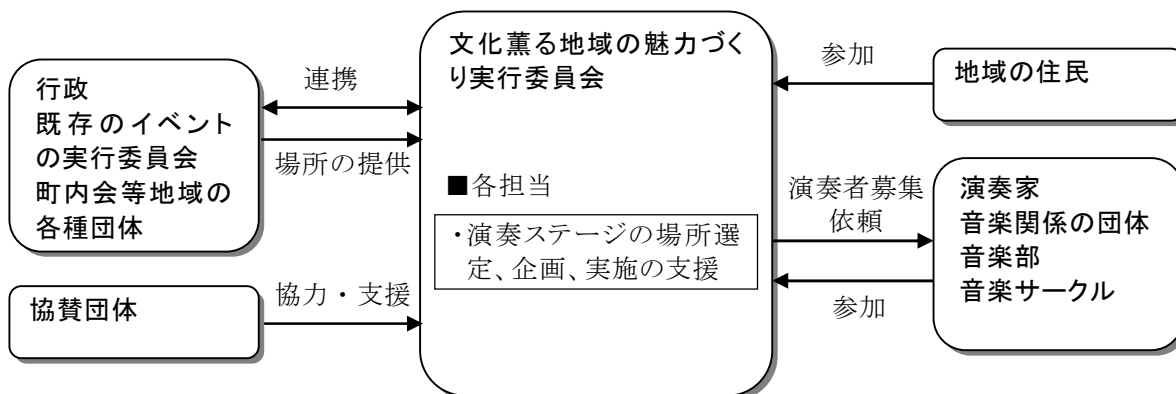
●事業概要

概要・目的	<p>合併後、旧5町の議場等を活用し「五色の花コンサート」として開催しているが、その実施内容を再検討し、地域独自の四季の彩り等を感じながら音楽を楽しめるイベントを開催する。</p> <p>再検討にあたっては、単独での音楽イベントとして実施するのではなく、伝統芸能の披露や物産の販売など各地域で実施している既存の祭り・イベントと連携して、地域の文化や四季の彩りを音楽でつなぐ。</p> <p>また、各地域において、他の地域で実施されている取組をモデルとして、地域住民の手で主体的に実施できるよう支援する。</p>
-------	---

●事業実施の背景及び事業実施により期待される効果や生じる課題

事業実施の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合併後、旧5町の議場等を活用し「五色の花コンサート」を開催している。 ・ 市民により広く参加していただけるイベントにするには、開催内容や時期、場所などイベント充実のための検討が必要である。 ・ 各地域で住民が主体となった祭り・イベントが開催されている。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ より参加しやすいコンサートとして実施し、各地域に住む人が音楽に触れる機会を多くもつことができるように工夫することで、幅広い年代の人が音楽を楽しむことにつながり、音楽への理解と、取組のすそ野が広がる。 ・ 地域のイベントの中に、地域に伝わる音楽や民謡などを取り入れることで、それらを見直す機会になり、発掘・伝承につながる。
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存のイベントの内容をいかに充実させ、新たな参加者を取り込むかが課題である。 <p><課題への対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四季の彩など地域の特色に応じた舞台づくりを行い、そこに市民が参加して、地域全体で演奏会をつくりあげる形にする。

●事業の推進体制



●役割分担

実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の既存イベントと連携する。 ・演奏ステージの場所の選定、企画、実施までトータルで支援する。 ・町内会等地域の各種団体と連携して事業を実施する。
市民・団体	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの運営に参加する。 ・各地域の既存イベントの実行委員会は、連携してイベントを開催する。 ・演奏家、音楽関係の団体、サークルなどは、演奏者として協力する。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会と連携して事業運営を支える。 ・演奏ステージとなる場所の提供に努める。 ・イベントのPRに協力する。

※事業イメージ



重点事業⑦ 意義や本質を伝える媒体の作成

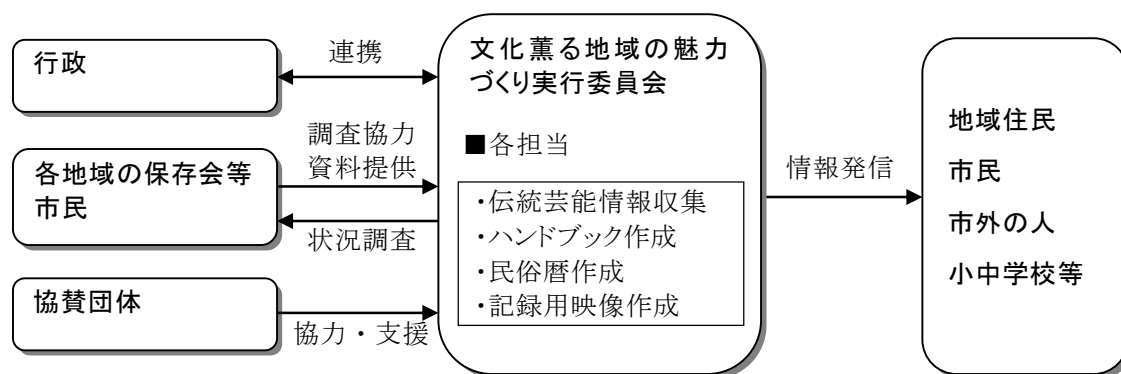
●事業概要

概要・目的	<p>○ ハンドブック・民俗暦の作成</p> <p>各地域の伝統芸能に関する十分な情報収集を行い、収集した情報をもとに地域伝統芸能の意義や本質を伝えるハンドブックを作成する。</p> <p>ハンドブックは、デザインにこだわり、質の高いものにするとともに、鹿児島県の地域伝統芸能を学ぶ教材としても活用できるように、市内の小中学校や観光ボランティアガイドなどに配布する。</p> <p>また、ハンドブックとサイズ、デザインを合わせて、市内全域の祭事・習俗を季節ごとに整理した「民俗暦」を作成し、その情報を定期的に更新する。</p> <p>○ 記録用映像の作成</p> <p>地域伝統芸能の踊りや唄を記録用映像として保存し、地域伝統芸能の本質や技能を後世に正しく伝承していくための資料とする。</p>
-------	---

●事業実施の背景及び事業実施により期待される効果や生じる課題

事業実施の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継承が困難となり活動を休止する地域伝統芸能も出てきており、地域の伝統芸能を守り伝えることが難しくなっている地域が存在している。 ・ どこでどのような伝統芸能があり、祭り等の地域行事がいつ開催されているのか、鹿児島市の地域伝統芸能についてあまり知られていない。(情報が伝わっていない。) ・ 市民が地域伝統芸能について詳しく知る機会が少ない。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各地域の伝統芸能の状況を把握できる。 ・ ハンドブックを作成することで、市内外の人に本市の地域伝統芸能を知る機会を提供し、興味をもつきっかけとなる。 ・ 伝統芸能の動き、唄など映像で保存することにより、正しく伝承される手助けとなる。
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハンドブックの作成にあたっては、他の観光ガイドブック等との明確な棲み分けが必要である。 <p><課題への対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手に取りやすく、より多くの人に親しまれるデザインとする。

●事業の推進体制



●役割分担

実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能の情報を収集する。 ・ ハンドブック・民俗暦・記録用映像を作成する。
市民・団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民や各地域の保存会等は、状況調査及び地域伝統芸能にかかわる資料の提供に協力する。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員会と連携して事業運営を支える。

※事業イメージ



重点事業⑧ 保存・伝承するための組織づくりと人材育成

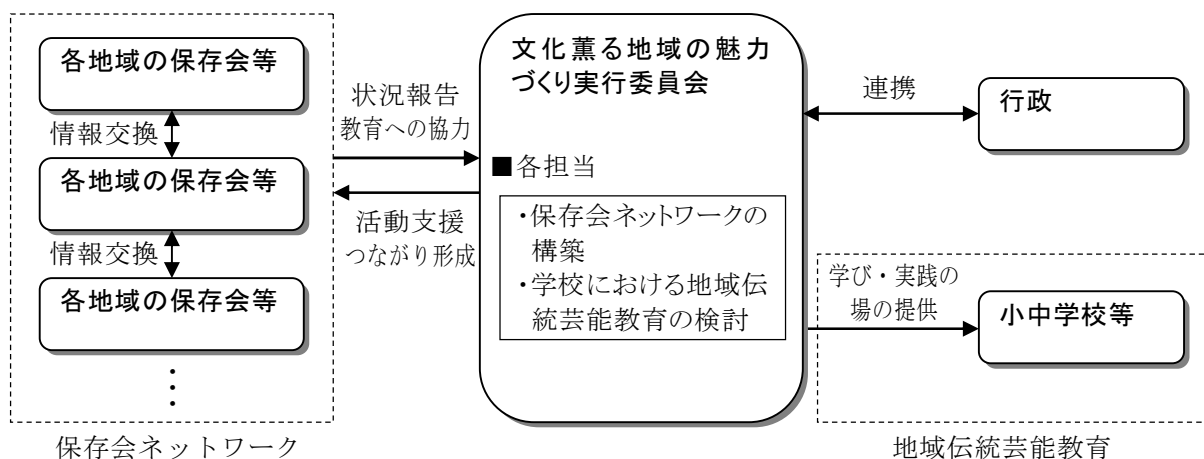
●事業概要

概要・目的	<p>○「地域伝統芸能保存会ネットワーク」の構築</p> <p>各地域の行事や祭りの課題や悩み、保存・伝承のために工夫して取り組んでいることなどの情報を交換、共有する仕組みとして「地域伝統芸能保存会ネットワーク」を構築し、地域間の連携につなげる。</p> <p>○ 地域伝統芸能教育の提供</p> <p>子どもたちに、地域伝統芸能を知る機会を設けるとともに、地域伝統芸能を継承している地域においては、学校等の支援を受けながら、それぞれの地域に伝わる伝統芸能の背景や意義を学び実践する機会を設け、唄や踊りなど、地域に伝わる技の伝承とともに、その地域の伝統芸能の本質を伝承する。</p>
-------	---

●事業実施の背景及び事業実施により期待される効果や生じる課題

事業実施の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各地域での行事や祭りの担い手が高齢化し、地元の人だけでは存続が難しくなっている地域がある。 ・ 地域伝統芸能を維持するために地域の実情に応じて柔軟に支援する制度、仕組みが少ない。（維持していくために支援を求める内容が地域によって異なる。） ・ 各地域でどのような行事・祭りをしているのか、どのような課題を抱えているのか、相互に知る機会が少ない。 ・ 保存会の人材が豊富な地域もあれば、既に休止状態、あるいは存続が危ぶまれる地域もあり、地域間で状況が異なる。 ・ 地域伝統芸能を伝承することやその価値に対する意識は、団体間・個人間で違いがある。（守り続けることを喜びと感じているもの、役割・使命感で継続しているもの、毎年の行事として無理のない範囲で続けているものなど、状況はさまざまである。） ・ 学校教育の中で地域伝統芸能について学ぶ機会が十分とはいえない。（学校での活動に取り入れているかどうかは、学校・地域によって異なる。）
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域伝統芸能を保存・伝承することができる。 ・ 今後地域の伝統行事や祭りを保存・伝承していく上で必要な情報を共有することができる。 ・ 互いの地域の伝統行事や祭りなどを知り、助けあうことで、各地域の活動の担い手の確保につながる。 ・ 学校の中で地域伝統芸能の意義を伝え、理解が深まることで、伝承に向けた子どもたちの意識が高まり、担い手の育成につながる。
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保存会ネットワークでは、保存会同士をつなぐ仕組みや体制が必要である。 ・ 保存会ネットワークの構築にあたっては、まず地域間の意識の差を埋めること、各地域の状況を共有することが必要である。 <p><課題への対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワーク構築にあたっては、まず各地域の保存会を集めて意見交換する場を設け、互いの状況を知ることからはじめる。（意見交換を通して、保存会間のつながりを形成する。） ・ 将来的には実行委員会が各保存会同士をつなぐ役割を担う。

●事業の推進体制



●役割分担

実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保存会ネットワークを構築する。 ・ 保存会ネットワークの意見を踏まえ、必要に応じて支援メニュー等も検討する。 ・ 地域伝統芸能教育は、実行委員会と教育委員会・小中学校等、各地域の保存会等が連携して取り組む。
市民・団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が住む地域の保存会等の活動に参加し、保存・伝承に協力する。 ・ 各地域の保存会等は他の地域の取組を知り、実施時期が重ならない場合は今後の継続のために協力しあい、また、各地域の伝統芸能を伝える講師として学校活動に参加・協力する。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員会と連携して事業運営を支える。 ・ 保存会ネットワークの仕組みを各保存会に周知する。 ・ 地域伝統芸能の活動状況等を把握する。

※事業イメージ



重点事業⑨ 伝統芸能を体感できる舞台と仕組みづくり

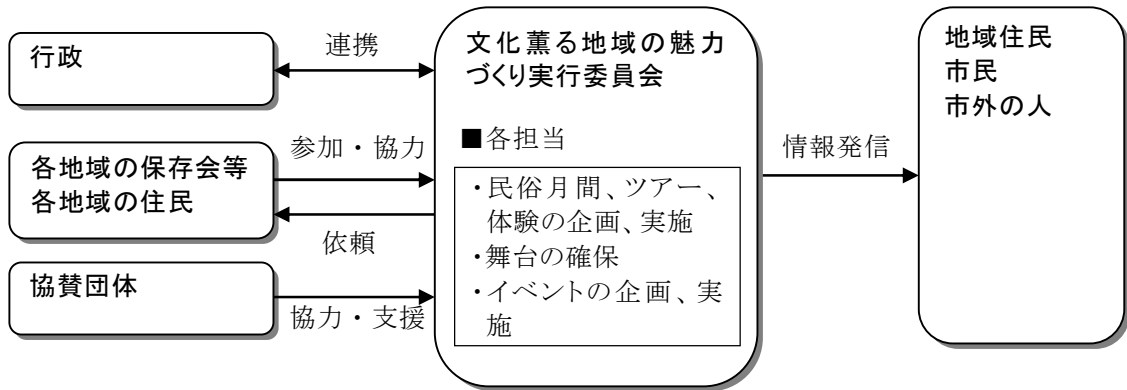
●事業概要

概要・目的	<p>○ 民俗月間の設定、文化体感ツアー・体験プログラムの提供</p> <p>各地域で伝統芸能が多く披露される時期を「民俗月間」として、各地域の伝統行事に市民の参加を促す雰囲気づくりを行う。</p> <p>民俗月間には、例えば、各地域に点在する伝統行事や祭りを巡り鹿児島県の文化を体感するツアーや伝統芸能体験プログラムなどを企画し、観光メニューとして提供する。</p> <p>○ 公共スペースを活用した芸能の舞台等の確保</p> <p>公共スペース等を活用して芸能を披露する舞台等を確保し、各地域の伝統芸能を身近に感じ、その意義や本質について学ぶことができる空間をつくり、各地域の伝統芸能を一堂に集めて披露するイベントや、音楽、美術とのコラボレーションイベントを開催し、鹿児島県の文化の発信拠点としてPRする。</p>
-------	---

●事業実施の背景及び事業実施により期待される効果や生じる課題

事業実施の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各地域の保存会等が中心となって多様な伝統行事や祭りをそれぞれの地域で開催している。 ・ 文化をテーマにした観光メニューや各地域の伝統芸能を体験できる機会がない。 ・ 各地域の伝統芸能について総合的に学べる場や、芸能を観覧できる舞台がない。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿児島県の地域伝統芸能に触れる機会を多く提供することにより、市内外の人が鹿児島市の地域伝統芸能を知り、興味をもつきっかけになる。 ・ 興味をもつ人が増えることで、その魅力を発信する主体が増える。(口コミにつながる。) ・ 伝統芸能ツアーや体験プログラムを提供することで、鹿児島県の観光メニューの幅が広がる。 ・ 市民に伝統行事や祭りの魅力を感じてもらうことで、これからの担い手(手伝ってくれる人)の確保につながる。
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能ツアー等の参加者をいかに多く募集できるかが課題になる。 ・ 伝統芸能の舞台をどのような形で確保するかが課題になる。 ・ 伝統芸能の舞台は、人が訪れやすい場所にする必要がある。 <p><課題への対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マスコミ等の協力を得て、広く情報を発信する。 ・ 地域伝統芸能の舞台の確保について、既存の公共スペースのほか、今後活用が予定される未利用地等を含めた具体的な場所や財源、ニーズ等を調査・検討し、関係機関に対して働きかけを行う。 ・ 施設の中に舞台をつくるのではなく、オープンスペースを活用する。

●事業の推進体制



●役割分担

実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民俗月間、ツアー、体験プログラムを企画・実施する。 ・ 舞台の確保は、行政と連携して行う。 ・ イベントを企画・実施する。
市民・団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が住む地域の保存会等の活動に参加し、地域全体で来訪者をもてなす。 ・ 他の地域の伝統行事や祭りを巡るツアーや体験プログラムに参加する。 ・ 各地域の保存会等は、ツアーや伝統芸能体験プログラムを受け入れ、また、舞台での伝統芸能の披露やイベントに参加する。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員会と連携して事業運営を支える。 ・ 事業のPRに協力する。

※事業イメージ



重点事業⑩ 「文化薫るかごしまづくりシステム（仮称）」の設置・運営

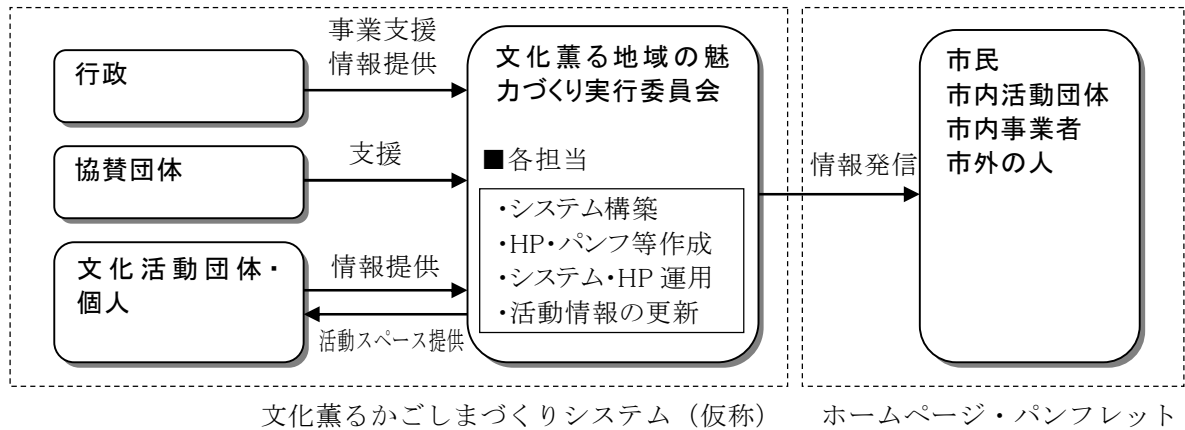
●事業概要

概要・目的	<p>○ 文化情報の集約及び発信</p> <p>各分野に係わる「人」「活動」「場所」の情報をデータベース化した「文化薫るかごしまづくりシステム(仮称)」を構築する。</p> <p>集約された情報を用いて、さまざまな要素を四季の風物詩としてパッケージ化したホームページやパンフレット等を作成し、市内外へ効果的に情報発信を行う。</p> <p>ホームページでは、イベントや展覧会などを実施することができる文化活動団体・個人の活動情報を公開する。</p> <p>○ 公共スペースの情報提供、手続きの簡素化</p> <p>各種文化活動に必要な公共スペースの情報を提供するとともに、公共スペースの利用にあたっては、簡易な手続きでイベントの開催や、パフォーマンスの披露ができるような仕組みを検討する。</p>
-------	--

●事業実施の背景及び事業実施により期待される効果や生じる課題

事業実施の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿児島市の文化情報を集約したツールがなく、どこで文化情報を入手できるのか明確でない。 ・ 各種文化情報が実施主体ごとに別々に発信されている。 ・ 市内にどのような芸術家・音楽家がいるのかあまり知られていない。(知る手段がない。) ・ 公共スペースで活動するには規制が多く、手続きにも手間がかかる。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化情報を集約して、そこからすべての文化情報を発信することで、市内外の人が情報を得るための窓口が明確になる。 ・ 情報をデータベース化して保存することで、さまざまな情報発信や取組の連携等の際に活用することができる。 ・ ホームページやパンフレットでは、文化情報を分野に限らず総合的に発信できるため、鹿児島市の新たな魅力を発見する手段となりえる。 ・ 活動情報が広く発信されることで、各個人・団体の活動の次のステップへつながる。
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「文化薫るかごしまづくりシステム(仮称)」を構築したあとの運用にあたり、管理・更新する人材や費用が永続的に必要となる。 <p><課題への対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ システムやホームページを更新しやすい仕組み(マニュアル化が可能な簡易な仕組み)にする。

●事業の推進体制



●役割分担

実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ システムを構築する。 ・ ホームページやパンフレット等を作成する。 ・ システム全体・ホームページを運用する。 ・ 個人・団体から提供された活動情報等を更新する。
市民・団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化情報に触れることで市の文化について知り、それを市外の人に伝える。 ・ 文化活動団体・個人は、活動情報や地域の情報などを提供する。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「文化薫るかごしまづくりシステム(仮称)」の設置・運営を支援する。 ・ 市内の文化資源の情報、活動に利用可能な公共スペースの情報を提供する。 ・ 団体・個人の活動スペースの使用手続きの簡易化を検討する。

※事業イメージ



～春・夏・秋・冬～



分野横断

重点事業⑪ 文化薫るかごしまづくりイベントの開催

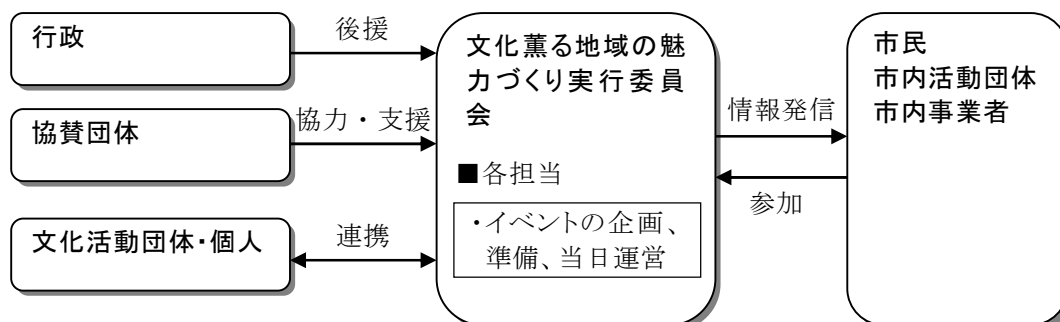
●事業概要

概要・目的	<p>文化薫る地域の魅力づくりプラン(仮称)に基づく取組を市民に広く伝え、文化への理解を深めるとともに、市民が文化活動に積極的に関わる意識の高揚を促進するために、本事業のオープニングイベントとして市民向けの「文化創造シンポジウム(仮称)」を開催する。</p> <p>シンポジウムにあわせて、美術、音楽、地域伝統芸能の3つの要素を組み合わせたイベントを開催し、各分野における今後の取組につなげる。</p> <p>イベント実施にあたっては、分野を横断した一つのテーマでつなぎ、連動性をもたせるとともに、文化薫る地域の魅力づくりプラン(仮称)で位置付けた重点事業のイベント的要素などを踏まえて試行的に実施する。</p> <p><美術> ・美術に関する有識者を招いたトークセッションの開催 など</p> <p><音楽> ・音楽と“あかり”のコラボレーションコンサートの開催 など</p> <p><地域伝統芸能> ・各地域の伝統芸能を一堂に集めて披露するステージの開催 など</p>
-------	---

●事業実施の背景及び事業実施により期待される効果や生じる課題

事業実施の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から文化活動に関わっているかどうかによって、文化に対する認識や、文化を守り育てていく意識に違いがある。 ・文化薫る地域の魅力づくりプラン(仮称)に位置づけた各重点事業について、広くPRするとともに、取組への主体的な参加を促す必要がある。 ・文化薫る地域の魅力づくりプラン(仮称)の重点事業として位置付けたイベントを継続的に行うためには、企画から実施、検証に至るまでの流れを試行的に実践し、今後取り組んでいく上での見通しをたてる必要がある。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が鹿児島県の文化を理解し、今後文化を守り、育てていく意識の底上げになる。 ・市民全体が一つの目標、ビジョンを共有する機会になり、人づくり、地域づくりという視点で各地域の文化について見直すきっかけになる。 ・イベントを通して実際に事業を運営していく流れをつかむことができるとともに、その後の重点事業を進めていく上での参考になる。
事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民に参加してもらえよう、効果的な情報発信が必要。 ・次年度につながるように、実施後の検証が重要である。 <p><課題への対応策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ等の協力により、広報、PRを行う。 ・文化薫る地域の魅力づくりプランの推進体制の中で、検証を行う。

●事業の推進体制



●役割分担

実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの企画、準備、当日運営を担う。 ・ 文化活動団体・個人と連携してイベントを開催する。
市民・団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの運営に参加する。 ・ 文化活動団体・個人は、イベントの出演者として協力する。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政は、イベントの開催を後援し、PR 等に協力する。

※事業イメージ

